

各 位

平成30年10月15日
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



「スワンヒルの庭」に咲き誇る紫紅色と白色のセンニチコウと樹木の紅葉

センニチコウ(ヒユ科)

草丈50cm程の1年生草本で、長い花茎をだしその先に1個の球状の花をつけます。詳しく見ると花は多数の小花が集まったものです。花は普通紫紅色ですが、白色や淡紅色もあります。名前「千日紅」の由来は花期が長く花の色が紫紅色だからです。この花は乾燥させても色があせず長持ちするのでドライフラワーにも利用されます。

野草園から見える西蔵王の山々は紅葉が進み、すっかり秋の気配となりました。園内のニシキギやサラサドウダンの葉が赤く染まり始めました。樹木の果実も見頃になり、サンシュユやカンボクの木にはたくさんの赤い果実が、クサギやムラサキシキブには藍色や紫色の果実が付いています。コナラやアベマキの木の下にはたくさんの果実(ドングリ)が落ちています。

そして上の写真のように、園内の「スワンヒルの庭」には紫紅色や白色の花のセンニチコウが咲き誇っています。野草園の10月は、樹木の果実と秋の草花、そして樹木の紅葉が私達の目を楽しませてくれます。是非、ご家族でおいで下さい。

10月中旬～11月上旬の予定

◆【第25回 野草園の魅力を探る写真コンテスト入賞作品展】

○日 時 10/20(土)～11/25(日) 9:00～16:30

○場 所 自然学習センター

◆【ガーテニング教室】

- 日 時 10/21(日) 10:00~12:00
- 場 所 自然学習センター内
- 講 師 戎野日出男 氏 (花のひこうき 代表取締役社長)
- 内 容 秋から春まで咲き続けるビオラを使ったハンギングバスケット作り
- 持ち物 防寒着、エプロン、タオル
- 対 象 先着15名
- 参加費 材料代として3,200円(入園料別)
- 申込み 電話で野草園まで、TEL023-634-4120

◆【きのこ汁の振舞い】

- 日 時 10/27(土) 28(日) 11:00~12:00
- 場 所 自然学習センター内
- 内 容 各日先着50名にきのこ汁を振舞います。(9:00~整理券配布)

◆【四季観察会③ 紅葉と木の実】

- 日 時 10/31(水) 10:00~15:00
- 講 師 植物案内ボランティア 志鎌 節郎 氏
- 内 容 野草園内の植物観察 ○持ち物 昼食、雨具
- 対 象 先着 20名 ○参加費 資料代として100円(入園料別)

◆【バードウォッチング】

- 日 時 11/10(土) 9:30~11:30
- 講 師 嵐田 稔 氏 ○場 所 園内
- 対 象 先着20名 ○参加費 資料代として100円(入園料別)
- 持ち物 双眼鏡(野草園でも貸し出します。)
- 申込み 電話で野草園まで、TEL023-634-4120

◆【ガイドウォーキング】

- 日 時 10/21(日)、28(日) 11/3(土)、4日(日)、11(日)
①10:00~11:00 ②11:00~12:00 ③13:00~14:00 ④14:00~15:00
- 場 所 野草園内全域
- 内 容 ボランティアガイドや職員と一緒に園内を散策します。申し込み不要、その場で参加できます。もちろん無料です。見どころの花の場所に案内し、その花の説明もします。

●●●10月後半に見られる花と樹木の果実と紅葉●●●



シオン(キク科)

山地のやや湿った所に生える多年草で、本州から九州にかけて分布し、野生のものは稀です。葉は細長い楕円形で対生し、根際から生える葉には長い柄がありますが、上の葉にはほとんど葉柄がありません。頭花は花径が25~35mmほどで、中央部の筒状花は黄色く、周囲の舌状花は淡い紫色です。



ヤナギバヒマワリ(キク科)

別名はゴールデンピラミッド、北アメリカのネブラスカからテキサス州にいたる地域に分布するそうです。茎が直立して無毛、多数の細い葉を互生します。花は、たくさんの黄色の舌状花と茶色の筒状花からなっています。和名は、花がヒマワリに似て、葉が柳の葉のように見えるからです。



シュウメイギク(キンポウゲ科)

人里近くの林縁などに生える多年草です。古い時代に中国から入ってきた栽培品種で中国では秋牡丹と言われているそうです。美しいので庭などにも植えられています。花は多数の花弁状の萼片からなり花弁はありません。名は、秋に菊によく似た花をつけることによりますが、菊ではなくアネモネの仲間です。



エゾリンドウ(リンドウ科)

福井県以北の山地帯から亜高山帯の湿地などに生える多年草です。茎の中・上部の葉は対生で、まれに3枚輪生します。青紫色の花は茎の先や葉の腋につけ、筒状鐘形で5裂します。切り花用にさまざまな園芸品種がつくられています。高山型で主として茎頂のみに花をつけるものをエゾオヤマリンドウといいます。



リンドウ(リンドウ科)

山野に生える草丈60cm程の多年草で、葉は対生し無柄で茎を抱きます。茎頂に数個の青紫色の5裂した鐘形の花を開きます。エゾリンドウが湿地に生えるのに対して、本種は山野に生えます。リンドウの根を乾燥したものは薬用にされ、漢方ではこれを竜胆(りゅうたん)と呼んでいます。それでリンドウにこの字を当てています。



ウメバチソウ(ニシキギ科)

山地などの湿り気のある日当たりのよい所に生える多年草です。茎の葉は円形または腎形で、基部は心形となり無柄で茎を抱いています。花茎が直立し1個の花をつけます。花は白色で花弁が5個、雄しべが5個で中央にふくらんだ雌しべがあります。名は花が梅鉢の紋に似ているからです。



ミヤマダイヤモンドソウ(ユキノシタ科)

湿気に富む岩地に生える多年生草本です。葉は長い柄があり腎円形で、基部は心形です。掌状に浅く7裂し裂片には粗い鋸歯があります。白色の花を開き花弁は5個、上の3個は小さく下の2個は長く、全体として「大」の字に似ています。本園では、ロックガーデンに咲いています。



台湾ホトトギス(ユリ科)

沖縄県などの亜熱帯地域の山地や森林の湿った場所に自生し、高さは30~50cmになります。和名は、斑点が入る花を、鳥のホトトギスの胸の模様に見立てたことに由来します。園芸用に品種改良されたものが多く栽培されています。本種は台湾ホトトギスと本州・四国・九州に自生するホトトギスの交雑種と思われます。



コスモス(キク科)

メキシコ原産で、観賞用として花壇などに植えられる1年草です。茎は直立し、葉は対生し2回羽状に分裂します。茎の上部に白色、淡紅色、深紅色などの花を開きます。花は周辺に8枚の舌状花がならび、中心には黄色の筒状花が多数集まり結実します。コスモスの名は、学名の属名そのままです。



キバナコスモス(キク科)

メキシコ原産の1年草で、大正時代に渡来しました。草丈はコスモスより低めで、花はコスモスより早い時期から咲き始めます。花色は橙色や黄色などで八重咲きです。黄色の花を咲かせるコスモスなので、名は「黄花コスモス」です。



ノコンギク(キク科)

山野のいたるところに普通に見られる多年草で、地下茎を伸ばしてふえます。茎には短毛が密生し、葉も両面に短毛が生えざらつきます。花は中心に黄色の筒状花が多数あり、まわりに淡青紫色の舌状花が1列に並びます。特に紫色の濃いものが選別されて、紺菊(コンギク)として観賞用に栽培されています。



クサギの果実(シソ科)

日当たりの良い山野の林縁に生える落葉の小高木です。花は、芳香のある白花を多数つけます。花の後、萼はこのようにきれいな濃紅色になり、深裂して星状に開き、中央に藍色の果実をつけます。まるで花のようです。花も果実も綺麗なのですが、名は「臭木」です。これは葉に臭気があるためつけられたようです。



カンボクの果実(レンブクソウ科)

主に北日本の山地に生える落葉低木です。葉は3つに裂け、初夏に白いガクアジサイのような両生花と装飾花の花を咲かせました。今は真っ赤な果実を多数付けています。とてもおいしそうに見えますが、つぶしてみると強い臭気があります。そのためか鳥も食べず、葉が落ちた後も、春まで残っています。



ナナカマドの果実(バラ科)

モミジ類やウルシ類とならび真っ赤な紅葉が美しい木のひとつです。小さな葉が羽のように並んで1枚の葉を構成する羽状複葉で、鮮やかな赤色に染まります。赤い果実も葉が緑色の頃からつけ、葉が落ちてからも枝に残ります。冬、鳥の餌などになります。



ムラサキシキブの果実(シソ科)

山野の林内や林縁に生える落葉低木です。葉は対生で、形は長楕円形、先が尾状にとがり基部は狭いくさび形です。夏に淡紅色の小さい花をたくさんつけました。花も美しいですが、果実は紫色で非常に美しいです。果実は葉が落ちた後も枝に長く残っています。



サンシュユの果実 (ミズキ科)

中国原産の落葉高木で、江戸時代に薬用植物として渡来しました。春、葉が開く前に淡黄色の小さな花をたくさんつけるので「春黄金花」と言われます。秋は果実が赤く熟すので「秋珊瑚」の別名もあります。果肉を乾燥したものを強壮、強精などの薬用に、果実を果実酒に利用します。



ニシキギの紅葉(ニシキギ科)

山地の落葉広葉樹林の林縁などに生える落葉低木です。樹皮は灰褐色で枝に褐色の薄い板状の翼があります。6月頃淡緑色の小さな花をつけ、現在は真っ赤な果実も見どころですが、「錦木」の名の通り紅葉が大変美しいです。



アブラツツジの紅葉(ツツジ科)

山地に生えよく枝分かれする落葉低木です。葉は枝先に輪生状に集まってつき、倒卵形です。6月頃枝先に淡緑色の花を総状につり下げました。ドウダンツツジの仲間は鮮やかな赤色に紅葉します。そのひとつが本種です。



ヤマモミジの紅葉(ムクロジ科)

北海道や日本海側に多い落葉小高木です。葉は対生で、掌状に深く5~9裂し、縁は重鋸歯になっています。園内でも最も多いカエデです。紅葉は葉が赤くなるもの、黄色くなるもの様々あり、変異が多いです。



ハウチワカエデの紅葉(ムクロジ科)

寒い地方に生える代表的なカエデです。葉は対生で、掌状に浅く7~11裂し、基部はハート形です。大きい葉を団扇(うちわ)に例えたことが名の由来で、真っ赤に紅葉するものが多いですが、明るい橙~黄色に紅葉するものもあります。



カツラの黄葉(カツラ科)

雌雄異株の高木で、雌花と雄花があり、春、葉が出る前に花が開きます。カツラの木が黄葉すると、周りは甘い匂いがします。それは、下にたくさんの黄色いハート形の落ち葉があり、それが茶色になり始めると、砂糖をこがしたような香ばしい香りを出すのです。